

2016年 新春ご挨拶

一般社団法人 日本加工食品卸協会
会 長 國分 勸兵衛



新年明けましておめでとうございます。

2016年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。

全国各地の皆様におかれましては、つつがなく新春をお迎えることと存じ、心よりお喜び申し上げます。

昨年の食品業界は円安や原料価格の高騰から歴史的な価格改定の年になりましたが、雇用環境や賃金の改善等から価格上昇をいくらか受け入れやすい市場環境に変化したような印象をもちました。また食品表示法の施行や機能性表示食品制度が始まり、価格と価値のバランスを伝える商品の開発にも注力した年でもありました。結果として増益基調のメーカーも増え、ようやく食品業界にもアベノミクス効果が及んできたのではないかと感じました。ただ物流費の高騰といったコストの増加まではなかなか価格転嫁が難しく一層の合理化が求められました。

未来の農林水産業・食料政策に大きな影響を与える「TPP交渉の大筋合意」がなされ、「農政新時代」ともいえる新たなステージを迎えることになりました。

こうした中で弊協会は、業界のコスト合理化を目指して、引き続き共通インフラの再構築に注力する方針を掲げ、情報システム、物流、経理業務等の分野で標準化に取り組む活動を行いました。

さて本年は、平成29年4月に予定される消費税増税時に導入される軽減税率制度への準備対応が大きな課題となり、さらには将来的に経理方式も現状の簡易方式からインボイス(税額票)の発行を義務付ける方向性が政策方針として出されましたので、対象品目の拡大とともに新たな対応が必要となります。加えて本格的な人口減少時代の到来に対して、業務の効率化はもとより長期的な視点でどう対応するか、消費者の価値観の変化の中で小売業の革新性を意識し、卸機能を提供する卸の存在価値を再考する時代に立っていると思います。

こうしたことを中心に、また食品流通の健全な発展を目指して業界活動に精進して参りますので、本年も変わらずご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます、新年のご挨拶とさせていただきます。